

感染性胃腸炎の集団発生について

博多区内の保育施設で、複数の園児及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの報告があり、行政による検査の結果、サポウイルスが検出された。

1 博多区内の保育施設

(1) 経緯

- 9月18日(水) 3名の園児に嘔吐、下痢の症状が出現。以降、職員や複数名の園児に嘔吐、下痢、発熱などの症状が出現。
- 10月2日(水) 当該施設より、嘔吐、下痢等の症状を呈している園児及び職員が10名以上いると報告があった。福岡市保健所が有症状者の発生状況を確認し、感染拡大防止及び患者等の健康観察の実施を指導した。
- 10月4日(金) 行政検査の結果、3名の園児からサポウイルスが検出された。

(2) 有症状者の区分 ※()内の数は、有症状者のうち、サポウイルスが検出された人数

園児	性別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		計	
	男	2	(1)	1	(0)	6	(0)	0	(0)	3	(0)	1	(0)	13	(1)
女	3	(0)	2	(0)	3	(2)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	9	(2)	
計	5	(1)	3	(0)	9	(2)	1	(0)	3	(0)	1	(0)	22	(3)	

職員	性別	20歳代		計	
	男	0	(0)	0	(0)
女	1	(0)	1	(0)	
計	1	(0)	1	(0)	

(3) 有症状者の発症状況

月日	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30
人数	3	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	5

月日	10/1	10/2	10/3	10/4	計
人数	2	1	7	1	23

(4) 症状

嘔吐、下痢、発熱 ※重症者はなく、全員快方に向かっている。

(5) 行政対応

- ① 施設への感染予防及び拡大防止のための指導を実施。
- ② 園児及び家族、職員の健康調査及び健康観察を実施するよう施設へ指導。

【お願い】 患者及び家族等のプライバシー保護については、特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。

サポウイルスによる感染性胃腸炎とは

【感染経路】

- ・サポウイルスに汚染された二枚貝などを生あるいは不十分な加熱で食べるなどにより、感染する。
- ・サポウイルスに感染した者のふん便や吐物の不適切な処理により、手指等を介して二次感染を引き起こす。

【主な症状】

- ・下痢、吐き気、嘔吐、腹痛、発熱。

【予防方法】

- ・二枚貝などを調理する場合は、十分に加熱（食品の中心の温度が85℃～90℃で90秒以上）してから食べること。湯通し程度の加熱ではウイルスは死なない。
- ・調理をする時、トイレの後や食事の前にはよく手を洗うこと。
- ・手洗いの後、使用するタオル等は清潔なものを使用すること。
- ・調理台や調理器具は、85℃以上で1分間の加熱または次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）による消毒が有効。

【サポウイルスとノロウイルスの違いについて】

- ・サポウイルスもノロウイルスも感染性胃腸炎の原因となるウイルスである。
- ・サポウイルスは、ノロウイルス同様に乳児から成人まで幅広く感染する。その症状はノロウイルスと同様であり、症状から区別することは困難である。
- ・特徴などの詳細は以下の通り。

		サポウイルス	ノロウイルス
特徴	科名	カリシウイルス科	カリシウイルス科
	大きさ	直径約38nm	直径約38nm
	形状	球形	球形
	感染経路	経口感染	経口感染
	潜伏期間	12～48時間	12～48時間
	主症状	下痢、嘔吐、発熱	下痢、嘔吐、発熱
	有症状期間	概ね1～2日	概ね3日以内
	症状消失後	1～2週間ほどウイルスが便中に排出されるため、二次感染に注意が必要	1～2週間ほどウイルスが便中に排出されるため、二次感染に注意が必要